

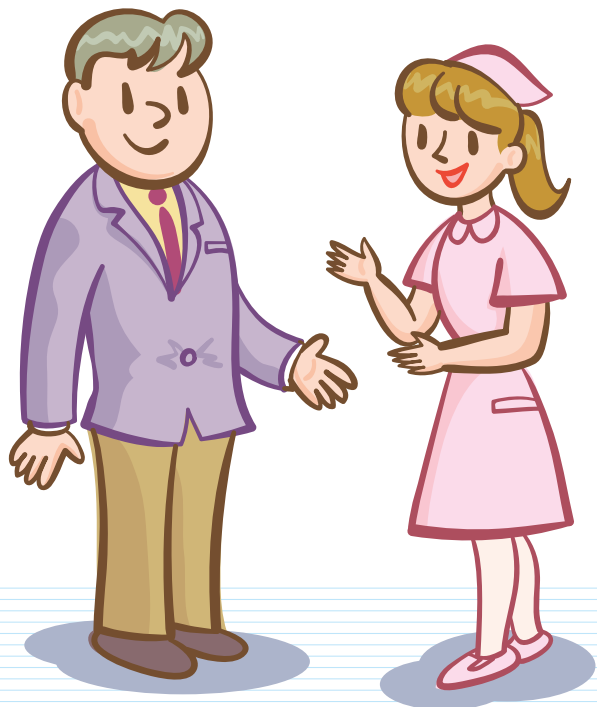
PART

3

ヒューマログ製剤のご使用にあたって

～製剤の種類、用法・用量、使用上の注意点～

監修：順天堂大学医学部内科学 教授 河盛隆造



CONTENTS

- 「ヒューマログ製剤」の種類(ラインアップ)
- 用法・用量・注射のタイミングについて
- 「ヒューマログ製剤」の使い方
- 「ヒューマログミックス製剤・ヒューマログN」の使い方
- ご使用にあたっての注意点
- 低血糖に注意しましょう
- 低血糖の対処法について
- 病気になったとき(シックデイルール)

「ヒューマログ製剤」の種類(ラインアップ)

PART **3** ヒューマログ製剤のご使用にあたって

カートリッジ製剤

ディスポーザブル製剤

バイアル製剤

超速効型インスリン製剤

ヒューマログ[®] 注カート
注キット
注バイアル100単位/mL

Humalog インスリン リスプロ(遺伝子組換え) 注射液



中間型インスリンアナログ製剤

ヒューマログN[®] 注カート
注キット

Humalog NPL 中間型インスリンリスプロ 注射液



ヒューマペン[®] ラグジュラ



超速効型インスリン混合製剤

ヒューマログミックス25[®] 注カート
注キット

Humalog²⁵ インスリンリスプロ混合製剤-25 注射液



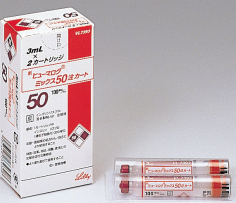
ヒューマペン[®] エルゴ



超速効型インスリン混合製剤

ヒューマログミックス50[®] 注カート
注キット

Humalog⁵⁰ インスリンリスプロ混合製剤-50 注射液





インスリン製剤の種類や量、注射のタイミングは、主治医が患者さんの病状に応じて判断します。医師から指示された内容を自分勝手に変更したり、誤った使い方をしないように注意してください。また分からないことがあったら、すぐ主治医に相談しましょう。

他のインスリン製剤から変更してお使いの方へ



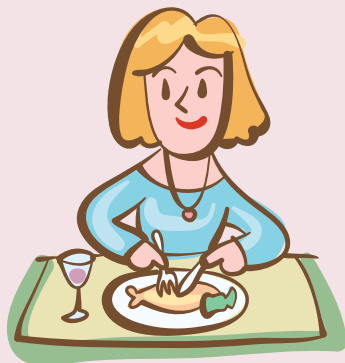
- 他のインスリン製剤から変更する場合は、必要に応じて投与量を増減する場合があります。投与量については、主治医の指示に従ってください。

他のインスリン製剤を併用してお使いの方へ



- 他のインスリン製剤を併用している患者さんでは、超速効型インスリン「ヒューマログ」を使うことで、その投与量や投与スケジュールの調整が必要となる場合があります。投与量については、主治医の指示に従ってください。

注射時間



食直前15分以内に
注射してください。
(すぐに効果が現れます)

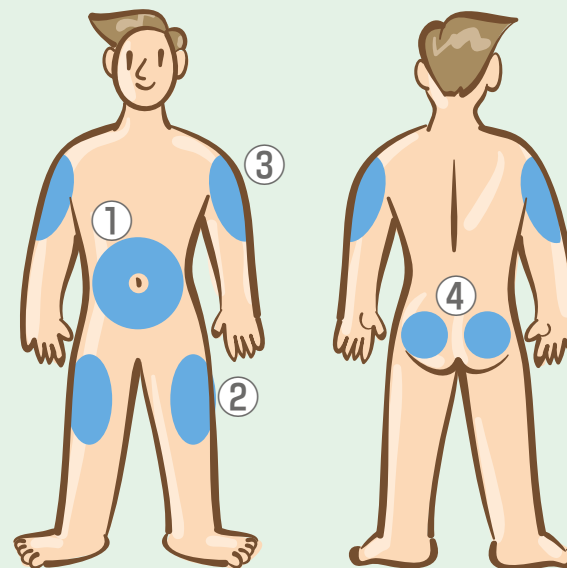
使用するペンに
「食直前」シールを貼っておくと
区別しやすく便利です。

保存場所

- インスリン製剤は、
冷蔵庫に保存します。
凍らせると使えなくなるので、
注意して保存してください。
- 使用中のキット製剤および
カートリッジセット後の
万年筆型注入器は、常温(室温)
で保管してください。



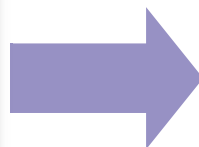
注射部位



- 注射に適した部位は
①腹部 ②太もも ③上腕 ④臀部が一般的です。
通常は、吸収が速く、安定している腹部に注射
します。
- 同じ場所に繰り返し注射すると、皮膚がかたくなり
吸収が悪くなるので、前回注射した場所から2
~3センチ程度離して注射しましょう。

● 白く濁った製剤(ヒューマログミックス製剤、ヒューマログN)をご使用の場合

白く濁った製剤をご使用になる場合、注射の前に液を均一に混合する必要があります。それを怠るとインスリンの作用が不均一になり、思ったような効果が得られないことがありますので、下記の手順にしたがって液を均一に白濁させてください。



●「ヒューマログ製剤」を注射される方は、以下の点に注意してください。

**低血糖に備えるため、
予防と対処法を覚えて
おきましょう。**

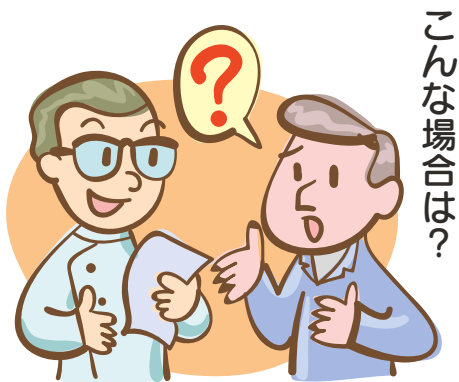
またご家族や周囲の人にも
これらをよく知って
おいてもらうように
心がけましょう。



**主治医の指示を正しく守り、
定期的に診察を受けて
ください。**



**体調がいつもと違う場合は、
すぐに主治医に
相談を!**



**他のインスリン製剤を併用される方は、
そのインスリンに関する
注意文書を必ず
お読みください。**



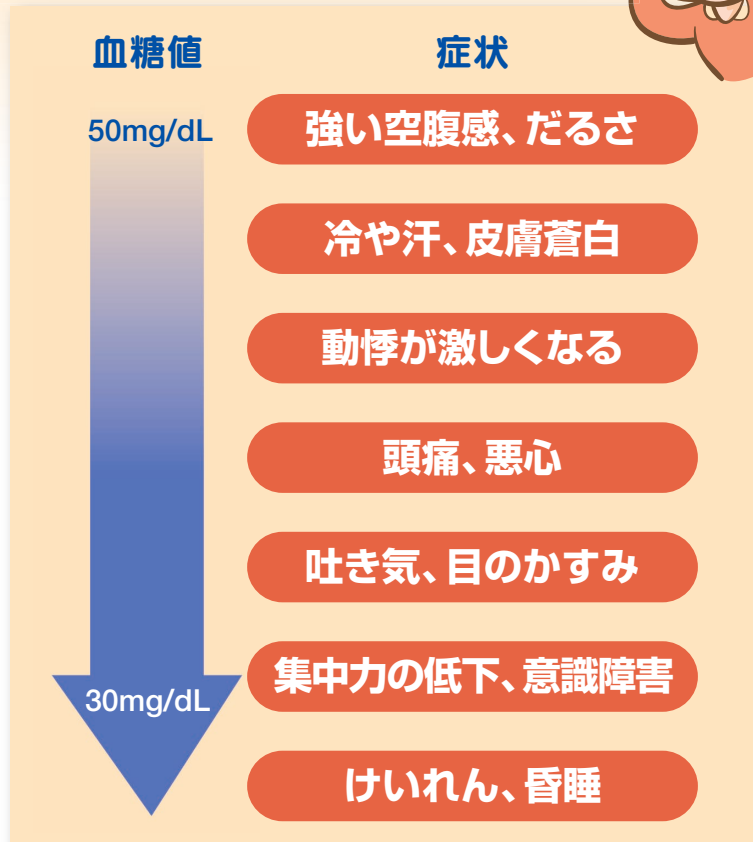
低血糖とは？

- 血糖値が正常範囲以下にまで下がった状態のことをいい、手足の震え、冷や汗や動悸、意識障害、けいれんなどの症状があらわれます。
- 低血糖は、初期症状がおきたときにきちんと対処すればすぐに回復しますので、自己判断でインスリン注射の量を調節したり、中止したりしないようにしましょう。また、低血糖が起こったら、必ず主治医に報告するようにしましょう。

低血糖を起こしやすい時

- ポイント 1 食事の量が少ない、食事の時間が遅れた
- ポイント 2 運動量が多すぎる、空腹時に激しい運動を行った
- ポイント 3 インスリンの注射量が不適切

低血糖の主な症状



※低血糖症状が起こる血糖値には個人差があります。自分の初期症状をよく理解しておくことが大切です。

低血糖が起きたときの対処法

- 症状を感じたら、すぐにブドウ糖(5~10g)、ブドウ糖を含む清涼飲料水(150~200mL)、砂糖(10~20g)などのいずれかを取り、安静にしましょう。

- 車を運転している場合は、**STOP!** すぐに車を止めて対処しましょう。



- 普通15~20分で症状が治まります。症状が治まったら、すぐに食事をするか、糖分の多い食品をとりましょう。

- 低血糖症状があらわれた時には、いつあらわれたかを覚えておき、主治医に相談しましょう。また、低血糖が起こったら、必ず主治医に報告するようにしましょう。

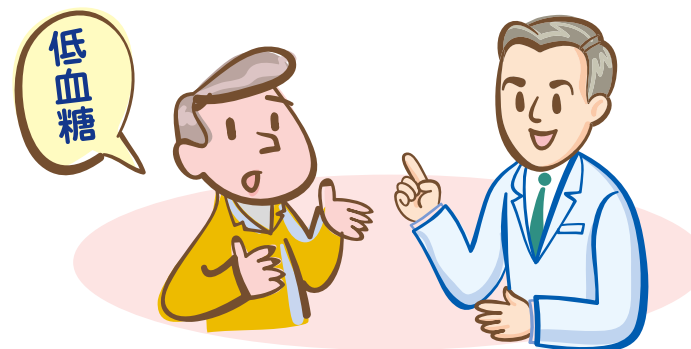
低血糖の備え

- ブドウ糖や砂糖、ブドウ糖を含む清涼飲料水の必要摂取量を主治医に確認し、携帯しておきましょう。



- α -グルコシダーゼ阻害薬*を服用している場合は、ブドウ糖が必要です。(α -グルコシダーゼ阻害薬には砂糖の吸収を遅らせる作用があるため)
- 低血糖の症状や対処法について、家族や周囲の人にも知ってもらっておきましょう。

*アカルボース(商品名:グルコバイ)、ボグリボース(商品名:ベイスン)



●シックデイとは

シックデイとは、病気の日という意味で、糖尿病患者さんが発熱や食欲不振、下痢、けがなどで体調を崩している日のことをいいます。病気の時(シックデイ)は、軽いかぜでも血糖値が上がりやすくなっていますので、下記のシックデイルールを守りましょう。



- ◆ 全く食事がとれない場合以外は、インスリン注射は必要です。自己判断でインスリンの注射を中止しないでください。
- ◆ 場合によっては、インスリンの増量や減量が必要ですので、あらかじめ、主治医と病気の時の対応について相談しておきましょう。



こんな時は、病院へ

- 下痢や嘔吐で食事が全くとれないとき
- だんだん症状が悪化する時
- 血糖値が300～350mg/mLを超える場合
- その他、心配なとき

